

# 医療・福祉NOW

## ▼家族が認知症？ どうやって外来へ…

宮沢 仁朗

あらゆる病気は早期発見・早期治療が肝心ですが、認知症も 마찬가지です。でも認知症疾患では往々にして受診まで長時間を要することが多い傾向にあります。

その最大の理由は、周囲が受診を促しても本人が専門医療機関に行きたがらないからなのです。

日本の認知症の原因の約9割は、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症の3大認知症で占められます。最も頻度の高いアルツハイマー型認知症では本人が物忘れ

に対して病識(自身が病気である認識)を持たず、受診を拒否する傾向があります。

血管性認知症の場合、物忘れを認識できても、性格変化で意固地になったりプライドが高くなったりして

受診を拒否、レビー小体型認知症では精神症状である幻視(特に人や動物が見えます)を信じて幻覚ではないと主張し、受診してくれません。



ではそういう場合どうやって物忘れ外来に誘導したら良いのでしょうか。認知症は高齢者に多いので、たいいの場合、高血圧や糖尿病などの生活習慣病でかかりつけ医がいます。家族が勧めても受診拒否する時は、かかりつけ医から誘導してもらおうのが一つの方法です。

かかりつけ医の誘導でも拒否する場合、少し離れた

親戚や友人の力を借りることも有効な手段となります。それでもどうしても受診しなかった際には諦めず、家族だけが専門医療機関を訪れ、医師やケースワーカーに事情を説明し相談することで、早期受診に結びつけることも可能です。

認知症の方にどうやって、少しでも納得してもらい受診していただくか。そのため、私は事前に家族と連携を図り、家族が検診を受けるから一緒に、あるいは高齢の場合検診が大切であるということを説明し、検査へと誘導します。

そして検査を受けていただいた後に、「よく検診に来てくださったでしたね、ありがとうございます。本当にお疲れさまでした」と感謝とねぎらいの言葉をかけ、認知機能検査や頭部CTの結果をわかりやすく説明すること、認知症の方に少

しでも心地よく納得していただいた上で治療導入を図ります。認知症の治療には「説得より納得」が大切であるゆえんです。今回の方法が、認知症の方の早期受診に向け、少しでも役立てば幸いです。(亀田北病院院長)